長期戦略:テーマ 「「総合学園」の枠組み再構築」

提出日 2019年 8月28日

担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署) 柳屋常任理事(法人) 実施計画の (法人部) 担当部署 法人部・各学校

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
4-(1)-② 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	(2022)年度	(2024)年度	必要なし	不要

内容

関西学院が9つの学校で構成される総合学園としての強みを最大限に発揮するためには、学院としての教育の理念・目的が統一されていることが不可欠である。各学校において、改めて学院のミッション(ミッションステートメント)とスクールモットー"Mastery for Service"を再確認し、「キリスト教主義に基づく全人教育」を最上位の理念・目的として共有する。そのうえで、各学校は学院の一員としてのアイデンティティを持ちながら、独自の教育方針や特色を打ち出す。

具体的施策としては、以上のことが一目でわかる広義の「総合学園」マップを作成し、各校で生徒募集やアイデンティティの浸透に活用する。 このことにより、学院が育てる人材像を共有し、学生・生徒・児童等とその保護者、教職員、各学校全ての卒業生の誇りと帰属意識につなげるとともに、外部への発信に より学院のブランドカ向上を図る。

進捗状況を測る指 標	指標名	定義・算式
指標1	新たな具体的施策実施状況	「総合学園」マップを活用した施策が実施されたかどうか
指標2	世略传(之生 児童・生徒・之生)	アンケート設問内容は、要検討。スクールモットーや各学校の教育方針の理解度が測れるよう、学校評価のキリスト教主義教育に関連した設問を主に利用する
指標3		

目標1<指標1>新たな具体的施策実施状況

	(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	4 年目以降
目標	_	実施する	実施する	実施する
実績				

目標2<指標2>総合学園・関西学院の認知度・理解度(学生、児童・生徒・学生の保護者、卒業生)

	(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	4 年目以降
	学生:60%	学生:65%	学生:70%	学生:70%
- I	児童・生徒・学生の保護者	:40% 児童・生徒・学生の保	護者:50% 児童・生徒・学生の保護者	:55% 児童・生徒・学生の保護者:60%
目相	卒業生:60%	卒業生:709	% 卒業生:75%	卒業生:80%
	(仮設定。設問内容によって変	を動する) (仮設定。設問内容によっ	って変動する)(仮設定。設問内容によって変	変動する) (仮設定。設問内容によって変動する)
実績	曹			

目標3<指標3>

	(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	4 年目以降
目標				
実績				

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
「総合学園」マップの作成	策定段階				「総合学園」マップの 検討内容確定	「総合学園」マップの 作製・活用
	2020 年 3 月末 段階	_	_	_		
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階	見直し	見直し後継続	継続	見直し	
	2020 年 3 月末 段階					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階					
	2020 年 3 月末 段階					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階					
	2020 年 3 月末 段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】				
		非公開		
経費 単位:万円	(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	4 年目以降
		非公開		
人員・人件費 単位:万円	(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	4 年目以降
		非公開		

4	進捗状況	•得ら2	h.t-	成馬
---	------	------	------	----

(2019) 年度	
(2020) 年度	
(2021) 年度	

5. 今後の課題及び方向性

(2019) 年度	_
(2020) 年度	
(2021) 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

201	18 年度	
201	19 年度	
(20)20) 年度	